

第135期

中間報告書

(平成29年10月1日から)
(平成30年3月31日まで)

ハウライ株式会社

— 会 社 の 概 要 —

設 立	昭和3年1月16日
資 本 金	43億4,055万円
本 店	東京都中央区銀座六丁目14番5号
従 業 員 数	189名 (平成30年3月31日現在)

株 主 の 皆 様 へ

代表取締役社長 谷澤 文彦

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は平成30年3月31日をもって第135期第2四半期の決算を行いましたので、その概況をご報告申し上げます。

営 業 の 概 況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀の経済・金融政策を背景に、企業収益や雇用・所得環境の着実な改善が続き、個人消費も持ち直す等、景気は緩やかな回復基調で推移しました。ただし、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響や貿易摩擦問題の動向等、先行き不透明感が強まっています。

このような状況下、当社は各事業がそれぞれの特性に応じた施策の推進に努めました。営業収益は、保険事業、不動産事業は前年同期を上回り、千本松牧場、ゴルフ事業は前年同期を下回りましたが、全体では前年同期比増収となりました。営業総利益は、保険事業は増益となりましたが、他の3事業は減益となり、全体では前年同期比減益となりました。一般管理費は人件費の増加を主因に前年同期を上回り、営業損失（前年同期は利益計上）となりました。

当第2四半期累計期間の経営成績は、営業収益が2,441百万円（前年同期比23百万円増）、営業総利益は293百万円（前年同期比15百万円減）、一般管理費は306百万円（前年同期比10百万円増）となり、営業損失は13百万円（前年同期は営業利益12百万円）となりました。営業外収益にゴルフ会員権消却益55百万円（前年同期比49百万円減）を計上したことを主因に、経常利益は58百万円（前年同期比51百万円減）、四半期純利益は64百万円（前年同期比64百万円減）となりました。セグメント別の業績は、次のとおりです。

① 保険事業

お客様が抱える各種リスクの分析を行い、その結果を基にお客様のご意向に沿った保険商品を提案するコンサルティングを推進しました。営業収益は、生命保険分野は法人契約の新規成約を主因に、損害保険分野は契約更改が順調に推移したことを主因に、両分野ともに増加し、全体では600百万円（前年同期比76百万円増）となりました。

営業原価は前年同期を若干下回り、営業総利益は255百万円（前年同期比77百万円増）となりました。

② 不動産事業

賃貸ビル全体の入居率はほぼ満室状態で安定的に推移しました。営業収益は、前期に入居したテナントの賃貸収入が寄与した、さくら堀留ビルの増収を主因に779百万円（前年同期比6百万円増）となりました。営業原価は、池袋室町ビルのテナントの移動に伴う改装工事による修繕費の増加を主因に前年同期を上回り、営業総利益は252百万円（前年同期比33百万円減）となりました。

③ 千本松牧場

明治の元勲、松方正義公が開場した歴史と伝統、広大な牧草地をはじめとした雄大な自然、安全・安心な原材料からの一貫生産等、「千本松牧場」のブランドイメージ向上を図るべく、ホームページやSNSなどの情報発信に加えて各種メディアへの露出も強化し、お客様やお取引先への認知度や好感度のアップに努めました。

営業推進部門は、ブランドイメージの向上を意識しながら、一貫生産の強みを活かし、特定の牛から搾乳した生乳を原料としたこだわりのアイスクリームや、地元産の「とちおとめ」を使用したヨーグルトの新商品を開発するとともに、直営店や量販店向販売商品のきめ細かい品揃え管理に努めたことにより、前年同期比増収となりました。

直販サービス部門は、昨年来好評を博している季節イベントの開催企画に磨きをかけるとともに、旅行会社との連携強化に努めましたが、秋口の長雨や台風の直撃で那須・塩原地域の観光客が減少したことを主因にご来訪者数が減少しました。12月以降もいちご園を中心にお客様にご来場いただけるように注力しましたが、平年以上の降雪や気温が低かったことで回復するまでにはいたらず、前年同期比減収となりました。

酪農部門は、天候不順により搾乳牛のコンディションが芳しくなく、春にかけ徐々に回復してまいりましたが、生乳販売が減少したことを主因に前年同期比減収となりました。

この結果、営業収益は部門全体では792百万円（前年同期比36百万円減）となりました。減収による売上原価の減少を主因に営業原価は前年を下回りましたが、営業総損失は87百万円（前年同期比20百万円悪化）となりました。

④ ゴルフ事業

昨年に引き続き、ハウライカントリー倶楽部での男子プロのサードクオリファイニングトーナメント開催や西那須野カントリー倶楽部での関東ゴルフ連盟主催のジュニア合同ラウンド研修会開催などにより、「戦略的なチャンピオンコース」としてのコース評価は着実に高まりました。両コースを使用したゴルフレッスン番組のテレビ放映等メディアを活用した広報や、各種競技会の誘致に積極的に取り組みました。また、本格的なゴルフシーズン到来に向け、乗用カートの新車導入等の各種設備更新を実施するとともに、コース管理体制の見直しを行いコースコンディションの一層の向上に努めました。しかしながら、秋口の2週連続での大型台風の襲来や、年末・年始の大寒波の積雪によるクローズが大きく影響し、来場者数は前年同期にとどかず、営業収益はプレー収入の減少を主因に268百万円（前年同期比22百万円減）となりました。営業原価は、人件費や修繕費の増加を主因に前年同期を上回り、営業総損失は127百万円（前年同期比38百万円悪化）となりました。

事業別営業収益

(百万円未満切捨)

期 別 事 業	前第2四半期累計期間 (平成28.10.1～ 平成29.3.31)		当第2四半期累計期間 (平成29.10.1～ 平成30.3.31)		増 減 前事業年度 (平成28.10.1～ 平成29.9.30)		
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	金 額	構 成 比
	百万円	%	百万円	%	百万円	百万円	%
保 険 事 業	524	21.7	600	24.6	76	1,056	19.9
不 動 産 事 業	773	32.0	779	31.9	6	1,556	29.2
千 本 松 牧 場	828	34.3	792	32.5	△36	1,924	36.2
ゴ ル フ 事 業	291	12.0	268	11.0	△22	782	14.7
合 計	2,418	100.0	2,441	100.0	23	5,319	100.0

(注) 品目及び数量については、種類が多く、その表示が困難なため記載は省略いたしました。

営業成績及び財産の状況の推移

(百万円未満切捨)

区 分	前第2四半期累計期間 (平成28.10.1～ 平成29.3.31)	当第2四半期累計期間 (平成29.10.1～ 平成30.3.31)	増 減	前事業年度 (平成28.10.1～ 平成29.9.30)
営 業 収 益(百万円)	2,418	2,441	23	5,319
経 常 利 益(百万円)	109	58	△51	479
四半期(当期)純利益(百万円)	128	64	△64	375
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	92.13	46.01	△46.12	268.61
総 資 産(百万円)	18,270	17,156	△1,113	17,312
純 資 産(百万円)	7,068	7,322	254	7,330

(注) 1株当たり四半期(当期)純利益は、平均発行済株式総数により算出しております。なお、平成29年4月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合をしております。1株当たり四半期(当期)純利益につきましては、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

四半期貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
【流動資産】	【3,681,274】	【流動負債】	【862,361】
現金及び預金	2,994,303	買掛金	78,245
受取手形及び売掛金	388,908	未払法人税等	19,809
たな卸資産	196,439	引当金	51,136
その他	102,729	その他	713,170
貸倒引当金	△1,107	【固定負債】	【8,971,415】
【固定資産】	【13,475,152】	長期預り保証金	8,502,785
(有形固定資産)	(12,482,083)	引当金	150,589
建物	3,016,620	資産除去債務	117,012
土地	7,056,555	その他	201,028
その他	2,408,907	負債の部合計	9,833,777
(無形固定資産)	(64,337)	(純資産の部)	
(投資その他の資産)	(928,730)	【株主資本】	【7,233,081】
その他	951,730	資本金	4,340,550
貸倒引当金	△23,000	資本剰余金	527,052
資産の部合計	17,156,426	利益剰余金	2,383,595
		自己株式	△18,115
		【評価・換算差額等】	【89,566】
		その他有価証券評価差額金	89,566
		純資産の部合計	7,322,648
		負債及び純資産の部合計	17,156,426

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

四 半 期 損 益 計 算 書

(自 平成29年10月1日
至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
【営業損益の部】		
営 業 収 益		2,441,924
営 業 原 価	2,148,729	
一 般 管 理 費	306,762	2,455,491
営 業 利 益		△13,567
【営業外損益の部】		
営 業 外 収 益		72,654
営 業 外 費 用		650
経 常 利 益		58,435
(特別損益の部)		
特 別 損 失		3,611
税 引 前 四 半 期 純 利 益		54,824
法人税、住民税及び事業税	4,728	
法人税等調整額	△5,973	
過年度法人税等戻入額	△8,188	△9,433
四 半 期 純 利 益		64,258

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

株 式 の 状 況

(平成30年3月31日現在)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| (1) 発行可能株式総数 | 3,720,000株 |
| (2) 発行済株式の総数 | 1,404,000株 |
| (3) 当中間期末株主数 | 1,017名 (前期末比88名減) |
| (4) 大株主 (上位10名) | |

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
室 町 ビル サービス 株 式 会 社	178,100株	12.74%
室 町 殖 産 株 式 会 社	99,100	7.09
株 式 会 社 帝 国 倉 庫	70,120	5.01
株 式 会 社 ケ イ エ ム コ ー ポ	70,000	4.96
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行	69,400	4.96
ホ ウ ラ イ 従 業 員 持 株 会	53,160	3.80
三 井 住 友 海 上 火 災 保 険 株 式 会 社	36,000	2.57
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	30,000	2.14
三 井 松 島 産 業 株 式 会 社	30,000	2.14
大 室 幸 之 助	28,600	2.04

(注) 1. 持株比率は自己名義株式 (7,432株) を控除して計算しております。

2. 平成29年4月1日付で、普通株式10株を1株とする株式併合を行い、同時に単元株式数を1,000株から100株とする変更を行っております。

取締役及び監査役

(平成30年3月31日現在)

代表取締役社長	谷	澤	文	彦
専務取締役	森		禄	弘
常務取締役	泰	地	伸	宏
常務取締役	林		周	毅
常務取締役	萩	尾	哲	也
取締役	増	田	雄	一
取締役	吉	田	卓	信
取締役	上	田	良	英
取締役	藤	本		敦
社外取締役	柴	田	征	範
常勤監査役	千	葉	正	裕
社外監査役	渡	辺	知	行
社外監査役	藤	川	隆	夫

株式事務の取扱について

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月開催
基準日	定時株主総会 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
<p>・住所変更、配当金受取方法の指定、単元未満株式の買取等のお申出先について株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行へお申し出ください。</p>	
<p>・未払配当金の支払について 株主名簿管理人である三井住友信託銀行へお申し出ください。</p>	